

彦根市埋蔵文化財調査報告 第3集

稲 部 遺 跡

— 発掘調査概要報告書 —

昭和57年 3 月

彦根市教育委員会

序

私達の生活の要素は、大きく社会的環境と自然環境の二つに分けられると考えられます。最近、自然環境の悪化が強く叫ばれ、私達の滋賀県においては、琵琶湖の総合的な環境保全対策が進められています。こうした自然環境だけに限らず、社会環境もまた急激な変化が起りつつあります。これらの変化が生活環境の悪化にならない様に、私達は絶えず注意を注がねばなりません。

この様に急激な変化を体験しつつある現代こそ、私達の位置を知るための確かな座標軸が必要であり、歴史こそがそれになりうると考えます。歴史は、私達の彦根の過去の姿を知るだけでなく、同時に姿を映す鏡であると言えるでしょう。この様な意味で、遺跡は非常に貴重なものであると言えるでしょう。

本書が、彦根のみならず広く古代史研究の一助になれば幸いであります。また、市民の皆様への文化財のご理解に役立つものとなれば、幸甚であります。

最後に、文末ではありますが、本調査に終始変わらぬご理解とご協力をいただきました株式会社滋賀住宅をはじめ、関係者各位の方々に対しまして厚く御礼を申し上げます。

昭和57年3月

彦根市教育委員会

教育長 河原保男

例 言

1. 本書は、滋賀県彦根市稲部町字イカリ 301 番地他に所在する稲部遺跡の発掘調査概要報告書である。
2. 本調査は、株式会社滋賀住宅の宅地造成工事に伴うもので、株式会社滋賀住宅の委託により彦根市教育委員会社会教育課が実施した。
3. 現地における調査は、昭和 56 年 2 月 2 日から同年 3 月 19 日までの期間実施し、その後整理作業にあたった。
4. 調査は、社会教育課本田修平が担当した。また、現地における図面等は、調査協力員林定信（名古屋工業大学 O・B）が主に作成した。
5. 現地調査・整理作業にあたっては、多くの方々のご協力を得た。記して謝意を表したい。

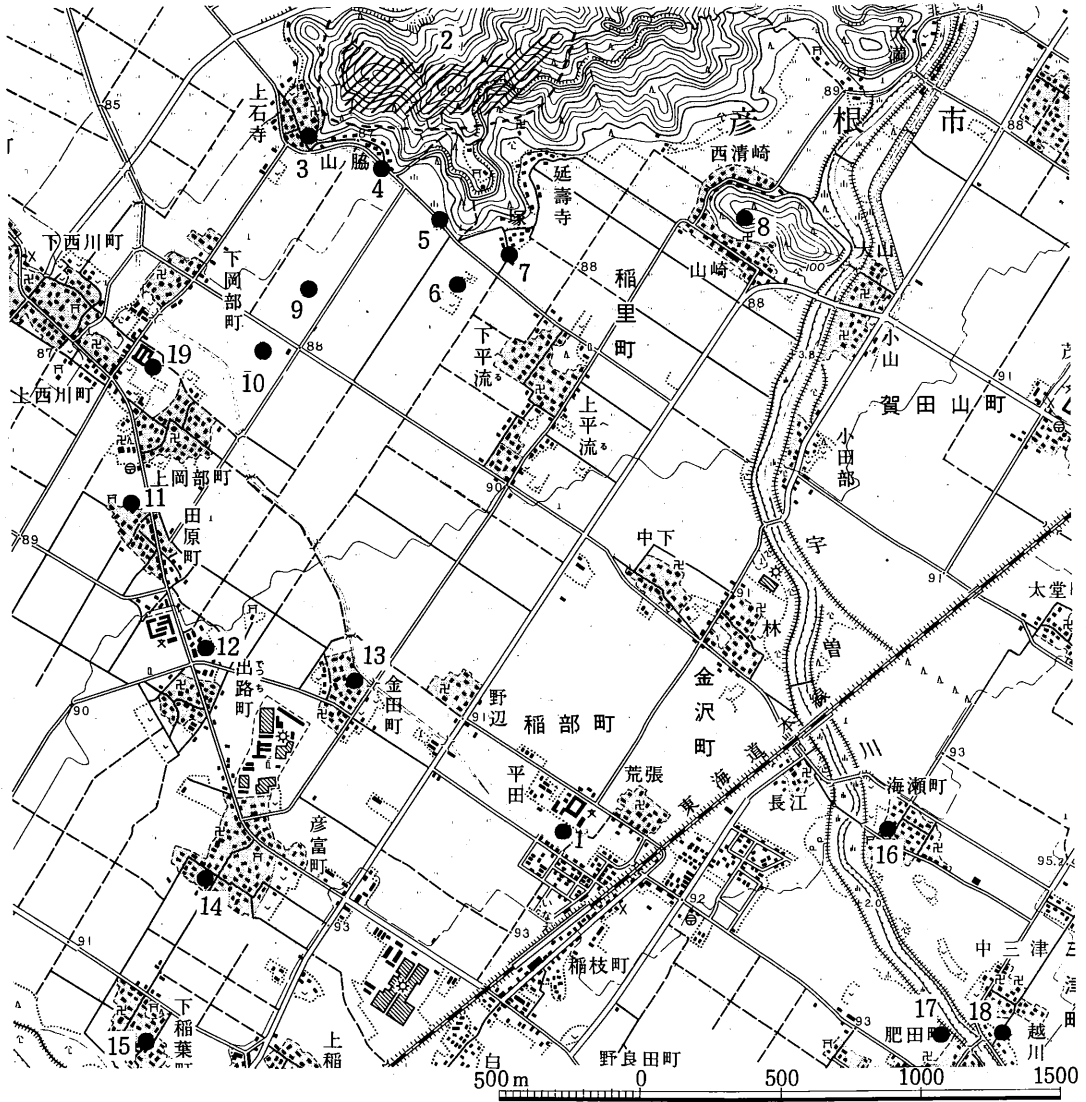
1. 位置と環境

稲部遺跡の所在する稲部町は、旧愛知郡稲枝町に属していた。旧稲枝町は、昭和43年に彦根市に編入された彦根市南部地域の田園地帯である。稲枝地区は、愛知川と宇曾川の間形成された地味豊かな沖積地に立地し、旧郡域で言えば、神崎郡と犬上郡の間に張り出す様に位置する。

稲枝地区の集落は、愛知川北岸に服部町・下稲葉町・本庄町・田附町・新海町等があり、宇曾川南岸には、肥田町・金沢町・稲里町等が並ぶ。また、中間部には、彦富町・出路町・田原町・岡部町・上下西川町・甲崎町等の並びが見られる。この集落の並びは、旧愛知川自然堤防の微高地上に形成されたものと考えられ、現在知られている遺跡もこのライン上に並ぶ事から見て、旧愛知川がかなり長期間流れていたことが知られる。

次に稲枝地区の遺跡を見ると、山腹および山麓に立地するもの、河川自然堤防上に立地するもの、沖積地の微高地上に立地するものの3タイプに大きく分けられる。このうち、弥生時代の遺跡として知られているものは、曾根沼遺跡・稲里遺跡・上岡部B遺跡・金田遺跡等沖積地の微高地上に立地するものである。古墳時代の遺跡は、集落跡と考えられるものは弥生時代の遺跡と同様の立地を示し、ほとんど弥生時代の遺跡と複合していると考えられる。また、古墳は大部分が荒神山とその周辺に集中し、平地に立地するものは、出路遺跡・狐塚遺跡等が知られている。奈良時代については、東大寺荘園絵図で知られる覇流荘と言われる曾根沼遺跡がある。仏教関係の遺跡は、白鳳時代の寺院跡は複弁蓮華文軒丸瓦等古瓦の出土が知られる岡部町の屋中寺廃寺と普光寺町の普光寺廃寺が有り、奈良時代から平安時代にかけてのものは、行基創建と伝えられる延寿寺遺跡や平安時代初期創建と言われる国昌寺遺跡・他に宝山寺遺跡等があげられる。中・近世の城館跡としては、高野瀬隆重築城と伝えられる肥田町肥田城遺跡やこの肥田城遺跡に属すると言われる三津町越川城遺跡があり、また、三津屋町三津屋城遺跡が上げられる。

以上、稲部遺跡周辺の遺跡について概括的にみてきたが、弥生時代以降沖積地での活動が盛んであり、古墳時代後期になると群集墳の造営が始まる。この力が、白鳳時代寺院の建造の原動力になると考えられる。しかし、稲枝地区はまだ考古学的調査が進んでおらず、不明な点が多い。特に、沖積地や湖岸堤に立地する遺跡がまだ確認されておらず、弥生時代・古墳時代の集落跡と言われている遺跡の実体が不明であり、今後、調査の進展を待ちたい。



- | | | |
|---------------|-----------|-----------|
| 1 稲部遺跡(今回調査地) | 7 稲里遺跡 | 13 金田遺跡 |
| 2 荒神山古墳群 | 8 国昌寺遺跡 | 14 狐塚遺跡 |
| 3 白塚遺跡 | 9 上岡部B遺跡 | 15 十輪寺遺跡 |
| 4 宝石寺遺跡 | 10 上岡部A遺跡 | 16 宝山寺遺跡 |
| 5 岩神遺跡 | 11 綾堂遺跡 | 17 肥田城遺跡 |
| 6 下岡部遺跡 | 12 出路遺跡 | 18 越川城遺跡 |
| | | 19 下岡部西遺跡 |

第1図 調査地点と周辺の遺跡

2. 調査に至る経過および調査方法

今回、発掘調査を実施した稲部遺跡の地番は、滋賀県彦根市稲部町字イカリ301番地他であり、国鉄東海道本線稲枝駅の北、約300mの所に所在する。また、この調査地東側には彦根市立稲枝東小学校がある。

当地は、駅周辺ではあるが、稲枝町・稲部町等昔からの集落以外はまた田・畑地がほとんどである。しかし、その立地から今後、徐々に開発が進むと考えられる地域である。彦根市における考古学的調査はまだ進んでおらず、従来この付近は、遺跡の知られていない空白部分であった。

昭和55年に当該地の宅地造成が株式会社滋賀住宅によって計画され、開発事前審査の段階で、埋蔵文化財確認調査依頼が彦根市教育委員会に提出された。同年12月に、重機による確認調査を実施したが、北側の宅地造成予定地からは遺物の出土・遺構面の検出等は認められなかった。しかし、南側の宅地造成予定地からは、包含層が確認され遺物の出土を見た。その結果、今回宅地造成を計画している南側部分が埋蔵文化財包蔵地である事が確認されたため、彦根市教育委員会は、株式会社滋賀住宅と緊急発掘調査についての協議に入った。協議の結果、包含層の確認された南側の宅地造成予定地については、昭和56年2月2日から緊急発掘調査を実施する事になった。発掘調査期間は、前記した様に昭和56年2月2日から始め、同年3月19日までを要した。

発掘調査は、約2,000㎡の調査地に4ヶ所のトレンチを設定して、包含層の範囲を確認する事を主目的とした。また、このトレンチ掘りで遺構が確認された場合は、その時点でトレンチを拡張して、その性格を調査する計画で発掘調査を実施した。

3. 調 査 結 果

まず、全体の基本土層を簡単に記せば、現状が田であった事から表土は耕作土であり、表面に須恵器等の遺物が、若干散布していた。第2層・第3層が包含層となり、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての土器が主体となって包含されていた。第2層は、灰色から褐灰色の色をした粘質土層で、部分的に砂質が強い所があり、遺物は弥生時代後期から中世にかけての土器を包含していた。第3層は、茶灰色粘質土層で部分的に植物遺体のスクモ層が入る所があり、地山は全体的に北側に向かって下がっており、遺物は弥生時代後期から古墳時代前期にかけての土器を包含していた。

調査地は、沖積地の関係と小河川文祿川が近く、地下水位が高く湧水が激しかった。このため、トレンチ壁の崩壊に悩まされ、土層断面図の作成が一部困難な所があった。

〔1 トレンチ〕

調査区域東端に設定したもので、9 m×9 mの大きさのトレンチである。土層は、第2層が灰色粘質土からなり、約20cmの厚さの床土を形成している。第3層は、茶褐色粘質土で南側が約25cmの厚さに堆積していたが、北端ではほとんど認められなくなる。第4層は、淡緑灰色砂質土層で無遺物層となる。

地山は、北に向かって低くなって行き、第3層も北に向かって薄くなる。遺物の出土量は、他のトレンチに較べて少なかった。

〔2 トレンチ〕

このトレンチは、1 トレンチの西側に8 m×15 mの大きさに設定した。東側 $\frac{2}{3}$ は、第4層の地山面まで下げたが、西側 $\frac{1}{3}$ は、下層を確認するため可能な限り掘り下げた。西側トレンチ断面は、湧水のため壁面が崩れ土層図を作製する事ができなかったため、東側壁面の土層図を合成して作製した。

土層は、基本土層とほぼ同一で、第2層黄灰色粘質土層と第3層茶灰色粘質土層が包含層である。

トレンチ南側端では、地山を切り込んだ自然流路、もしくは沼状の落込みと考えられるものの肩部が確認された。この中の土層は3層あり、上層の暗茶灰色粘質土層は第3層の包含層が落ち込んだものと考えられ、遺物を包含していた。中下層は、植物遺体や流木片を多数含んでいたが、遺物の包含は確認できなかった。

〔3 トレンチ〕

3 トレンチは、2 トレンチの西側に7.5 m×15 mの大きさに設定したもので、4つのトレンチの中で遺物の出土量が一番多かった。このトレンチでは、南北端で2 トレンチと同様の自然流路、もしくは沼状の落ち込みが確認された。

トレンチ中央部は、地山と考えられる青灰色砂層が馬の背状に高く、南北に向かって落ち込む。北側

の落ち込みの状態は、地山と共に第3層の包含層である砂混り褐色粘質土層が落ち込む。その後、茶褐色粘質土層と砂混り褐茶色粘質土層が形成された。落ち込みの底には、濃灰色粘土が堆積していたが、無遺物層であった。

南側の落ち込みは、徐々に地山が落ち込みこれにそって砂混り濃灰色粘質土が落ち込む。この層には、植物遺体や流木片が混っており、2トレンチの続きのものと考えられる。また、トレンチ中央部南側にも、包含層の砂混り褐色粘質土層が溝状に落ち込んだ所があった。

〔4トレンチ〕

今回の調査地区の西端に、7.5 m×12.5 mの大ききで設定したもので、約75 cmの厚さで包含層が堆積していた。土層は、第2層が淡灰色粘質土層と淡黄灰色粘質土層から成り、第3層は砂混り褐茶色粘質土層が基本になり、これにトレンチ北側では明黄灰色粘質土層が乗る。

トレンチ西半分を4層以下掘り下げたが、3トレンチ南端で確認された自然流路状のものは認められなかったが、北端は3トレンチ同様溝状に落ち込み、自然流路か沼状のもの続きと考えられる。この中には、植物遺体や流木片等が混っていたが、遺物は認められなかった。

4. ま と め

稲部遺跡の今回の発掘調査では、土器の残存状態の良い包含層を確認した。包含層に若干の土色の相違はあるが、全体的に見れば、その出土した遺物等から上下2層と見て良い。上層は、土師質の小型皿・灰釉陶器も若干見られた事から、平安時代から中世にかけて形成されたものと考えられる。第3層は、須恵器の坏身等を含み、古墳時代後期以降に形成されたものと考えられる。この上下2層の包含層は、前述した様に出土遺物の主体は、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての土器であった。

今回の調査地点は、調査結果の項で記した様に土質等から考えれば、当時の状態は、低湿地であった事が考えられる。地形的には、国鉄西側から続く微高地の先端部にあたる。この事から考えれば、今回の調査で確認された包含層は、集落跡周辺に形成された2次的な包含層であると考えられる。

以上の事により、今回の調査地点周辺で、この時代の生活した跡＝集落跡の発見が、今後の課題だと考える。

5. 稲部遺跡出土遺物観察表

番号	器形	法量	形態	調整	備考
1	壺	32.9 cm (腹径)	<ul style="list-style-type: none"> 頸部下に櫛状工具による凹線文を二条施し、上半部に列点文を入れる。 体部は下半部がやや扁平な球形を成し、くぼみ底の底部を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面はハケ状工具による調整丹塗り。 内面は器表剥脱のため不明 	3-T 2層 胎土：良好 色調：赤褐色 焼成：軟
2	壺	11.2 cm (口径)	<ul style="list-style-type: none"> 「く」の字に外反する口縁で端面取する。端部下に一穴穿つ。 肩部は上位に位置する。 底部はくぼみ底である。 	<ul style="list-style-type: none"> 内外面ハケ調整 	3-T 2層 胎土：良好 色調：淡褐灰色 焼成：硬
3	壺	10.3 cm (腹径)	<ul style="list-style-type: none"> 頸部にハケ状工具による擬凹線を施す。 体部は下半部がやや扁平な球形を成す。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面はヘラ磨き調整と思われるが、器表磨滅の為不明 内面は横ナデ調整と思われるが不明 	3-T 2層 胎土：良好 色調：明赤褐色 焼成：軟
4	壺	20.4 cm (口径)	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は直線的に開き、端部は面取りされており、肥厚する。 体部は肩の張った球形を成す。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部内外面は横ナデ調整 体部外面はハケによる成形後横ナデ調整 体部内面下半は横方向の指ナデ 体部内面上半はナデ上げ調整 	3-T 2層 胎土：粗雑 色調：明赤褐色 焼成：軟
5	壺	12.5 cm (口径)	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は内彎して開き、端部を丸くおさめる。 下部部は肩が張らない。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部内外面とも横ナデ調整 体部は頸部下から斜め右下方向のヘラ磨き調整、内面は指頭圧痕を残し、弱い横ナデ調整を施す。 	3-T 2層 胎土：密 色調：淡白褐色 焼成：硬
6	小型丸底壺	9 m (口径)	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は斜上方に開き、頸部はしまらない。 体部は肩があまり張らず、やや下が長い球形を成す。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は内外面とも横ナデ調整 体部は内外面ともに器表が剥脱しており、不明であるが部分的にナデ調整痕を残す。 	3-T 2層 胎土：良好 色調：赤褐色 焼成：軟
7	手焙り形		<ul style="list-style-type: none"> ドーム状を成す。覆い部のみ残存 窓は断面三角形を成し、上部はやや引き出され、中部と下部に突帯を入れ、上部には綾杉文、突帯の間には珠文を入れる。覆い部外面にはヘラによる刻みを入れる。覆い部外面にはヘラによる平行線を引き、その間を刻む。 	<ul style="list-style-type: none"> ナデ調整 	3-T 2層 胎土：良好 色調：白灰色 焼成：硬

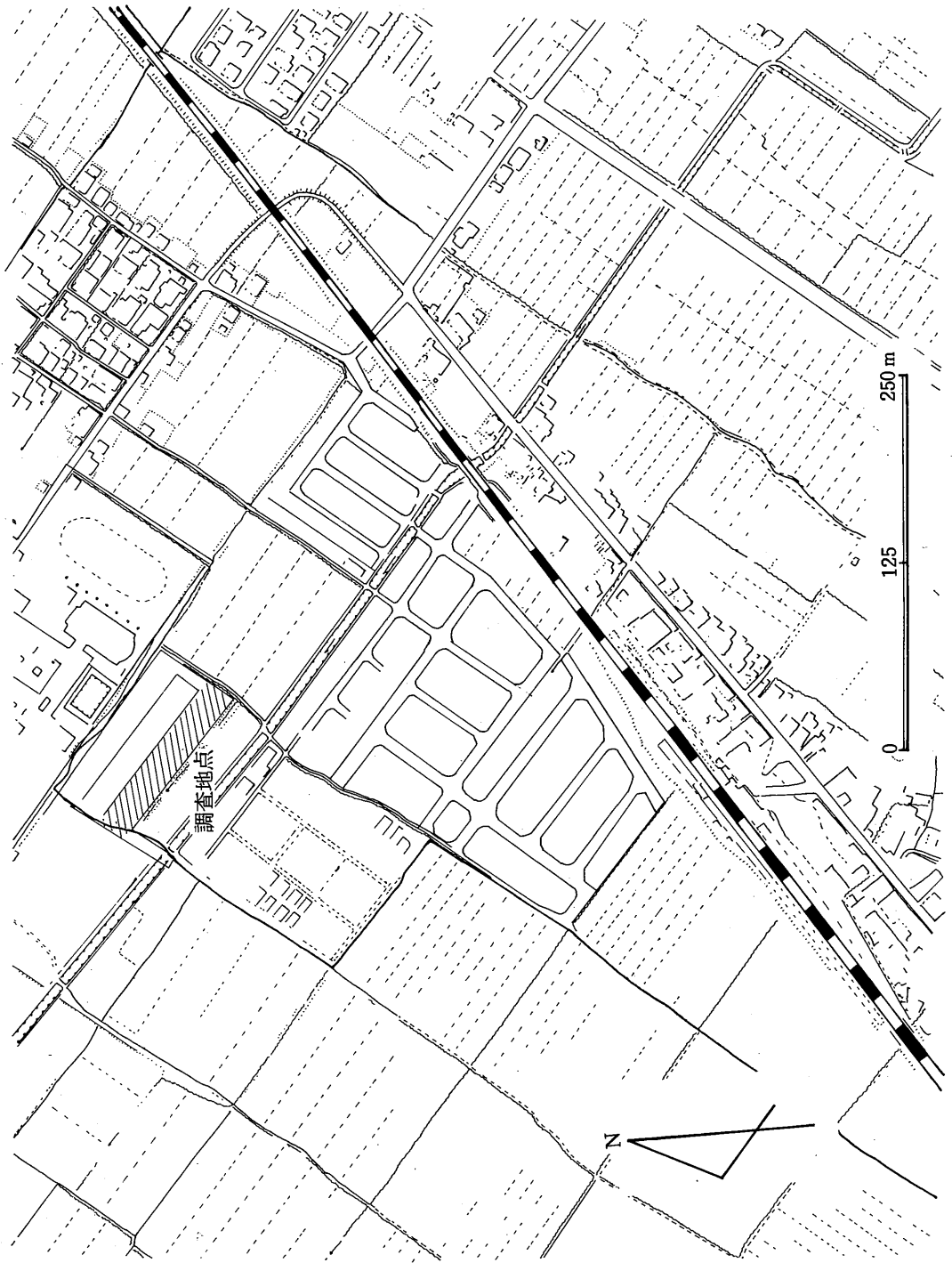
8	甕	16.3 cm (口径)	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は「く」の字状を成し、端部に強いナデを入れる関係上、やや外反する。 体部は肩が張らず、最大腹径は中位に位置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は内外面とも横ナデ調整 体部は外面、粗いタタキ目を残す 体部内面は部分的にタタキ目を残すが横ナデ調整 	3-T 2層 胎土：密 色調：淡黄褐色 焼成：硬
9	甕	15.2 cm (口径)	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は受口状を成し、端部下にヘラ状工具による沈線を施す。 体部はしまった頸部からあまり肩は張らず、最大腹径は上位に位置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部内外面とも横ナデ調整 体部は外面がヘラ状工具によるカキ目を残す。内面はナデ上げ調整。内面下部に炭化物が付着。 	3-T 2層 胎土：密 色調：淡黄褐色 焼成：硬
10	甕	18.8 cm (腹径)	<ul style="list-style-type: none"> 最大腹径は中位に位置し、しまったくぼみ底の底部を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面はヘラ状工具によるカキ目を残す。 内面は器表の剥脱がはげしいがナデ上げか？ 	3-T 2層 胎土：良好 色調：淡白褐色 焼成：硬
11	甕	17.6 cm (口径)	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は外彎して開く「く」の字状を成し、端部は強いナデのために外方と上方に若干引き出される。 体部はしまった頸部から強く肩が張る。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部外面は横ナデ調整 口縁部内面は横ナデ調整後粗いハケで横方向に仕上げ調整を行う。 体部外面は口縁部内面と同一のハケ状工具によるハケ調整 体部内面は横ナデ調整 	2-T 2層 胎土：良好 色調：淡褐赤色 焼成：硬
12	浅鉢	17 cm (口径)	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は受口状を成す。口縁外面の頸部上方にヘラ状工具による刻目を施す。 体部は肩が張らず、最大腹径は下位に位置する。頸部にヘラ状工具による刻みを施す。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は内外面ともに横ナデ調整 体部外面は右下方にヘラ状工具による横ナデ調整 体部内面は横ナデ調整 	3-T 2層 胎土：良好 色調：赤褐色 焼成：硬
13	高坏	20.2 cm (口径) 16.8 cm (器高)	<ul style="list-style-type: none"> 坏部は内彎して開き、端部は丸くおさめる。 脚部は三孔を有し、ラッパ状に開き、端部を丸くおさめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 器表剥脱のため不明 坏底部は円盤充填 	3-T 2層 胎土：良好 色調：赤褐色 焼成：やや軟
14	高坏	16.9 cm	<ul style="list-style-type: none"> 坏部は内彎して開き、端部は丸くおさめる。 坏底部に弱い稜を持つ。丹塗り 	<ul style="list-style-type: none"> 坏内外面ともに器表剥脱がはげしいがヘラ磨き調整 	3-T 2層 胎土：密 色調：明赤褐色 焼成：やや軟
15	高坏	12.5 cm	<ul style="list-style-type: none"> 坏部は平らに作られた坏底部より屈曲してやや内彎気味に開き、端部を丸くおさめる。屈曲部には強い稜が入る。 脚部は三孔を有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 坏部内面は縦方向のヘラ磨きで坏部外面は横方向のヘラ磨き 坏底部外面はハケ調整の後に横方向のヘラ磨き 脚部外面は縦方向のヘラ磨き 脚部内面は紋り痕を残す。 	3-T 2層 胎土：密 色調：赤褐色 焼成：硬
16	高坏	13 cm	<ul style="list-style-type: none"> 坏部は広い底部を持ち、強く屈 	<ul style="list-style-type: none"> 坏部内外面ともに器表が剥脱 	4-T 2層

		(口径)	<p>曲し、内傾して立上り、端部を丸くおさめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 脚部は三孔を有する。 	<p>のため不明。</p> <ul style="list-style-type: none"> 坯底部外面はハケ調整の後に放射状に細かいヘラ磨きを施す 坯底部内面は放射状のヘラ磨き、円盤充填 脚部は外面縦方向のヘラ磨き 脚部は内面はヘラ削り 	<p>胎土：良好 色調：赤褐色 焼成：硬</p>
17	高坏	15.3 cm (脚部径)	<ul style="list-style-type: none"> 脚部上半は直線的な柱上部を成し、下半部はラップ状に開き、端部を強くナデ面取りする。 三孔を有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 脚部外面は縦方向のヘラ磨き 脚部内面は横ナデ調整 柱状部はヘラ削り 	<p>4-T 2層 胎土：良好 色調：赤褐色 焼成：硬</p>
18	器台脚	11.8 cm (脚部径)	<ul style="list-style-type: none"> 脚部はラップ状に開き、端部に至り、やや内彎する。 三孔を有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 脚部外面は透し、下まで縦方向のヘラ磨き、それ以下は左下方へのヘラ磨き 脚部内面下方はハケ調整 脚部内面上方はヘラ削り 	<p>3-T 2層 胎土：密 色調：淡赤褐色 焼成：硬</p>
19	器台?脚	12.8 cm (脚部径)	<ul style="list-style-type: none"> 三孔を有し、ロート状に開き、端部を丸くおさめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面は器表剥脱のため調整法不明 内面はハケ調整 	<p>3-T 2層 胎土：良好 色調：淡赤褐色 焼成：やや軟</p>
20	器台	15.1 cm	<ul style="list-style-type: none"> 直線的な柱状部からラップ状に開き、端部を面取りして上方につまみ出し、刻目を入れる。 三孔を有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 器台底部は外面縦方向のヘラ磨き、内面横方向のヘラ磨き 柱状部外面縦方向のヘラ磨き 柱状部内面ヘラナデ 柱状部下半部外面は右下方へのヘラ磨き 柱状部下半部内面は横ナデ調整 	<p>4-T 2層 胎土：密 色調：暗赤褐色 焼成：硬</p>
21	器台	9.4 cm	<ul style="list-style-type: none"> 器台部はやや内彎して開き、端部を面取りする。 脚部はロート状に開き、端部は弱い面取りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 器台部は内外面とも横ナデ調整 脚部は内外面ともに横ナデ調整 	<p>4-T 2層 胎土：密 色調：白褐色 焼成：硬</p>
22	不明	3.5 cm (最大径)	<ul style="list-style-type: none"> 台形上に開く、脚部か? 	<ul style="list-style-type: none"> 手捏で作られている 	<p>4-T 2層 胎土：密 色調：淡灰黒色 焼成：硬</p>
23	壺	15 cm (口径)	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は外彎して開き、端部上面は弱く、つまみ出され、端部下面は垂下する。 体部は強く張り、頸部下にクシ状工具による擬凹線と列点文を施し、その下同様に擬凹線と列点文を入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は内外面とも横ナデ調整 体部外面は横ナデ調整 体部内面は不明 	<p>2-T 3層 胎土：良好 色調：明褐灰色 焼成：硬</p>

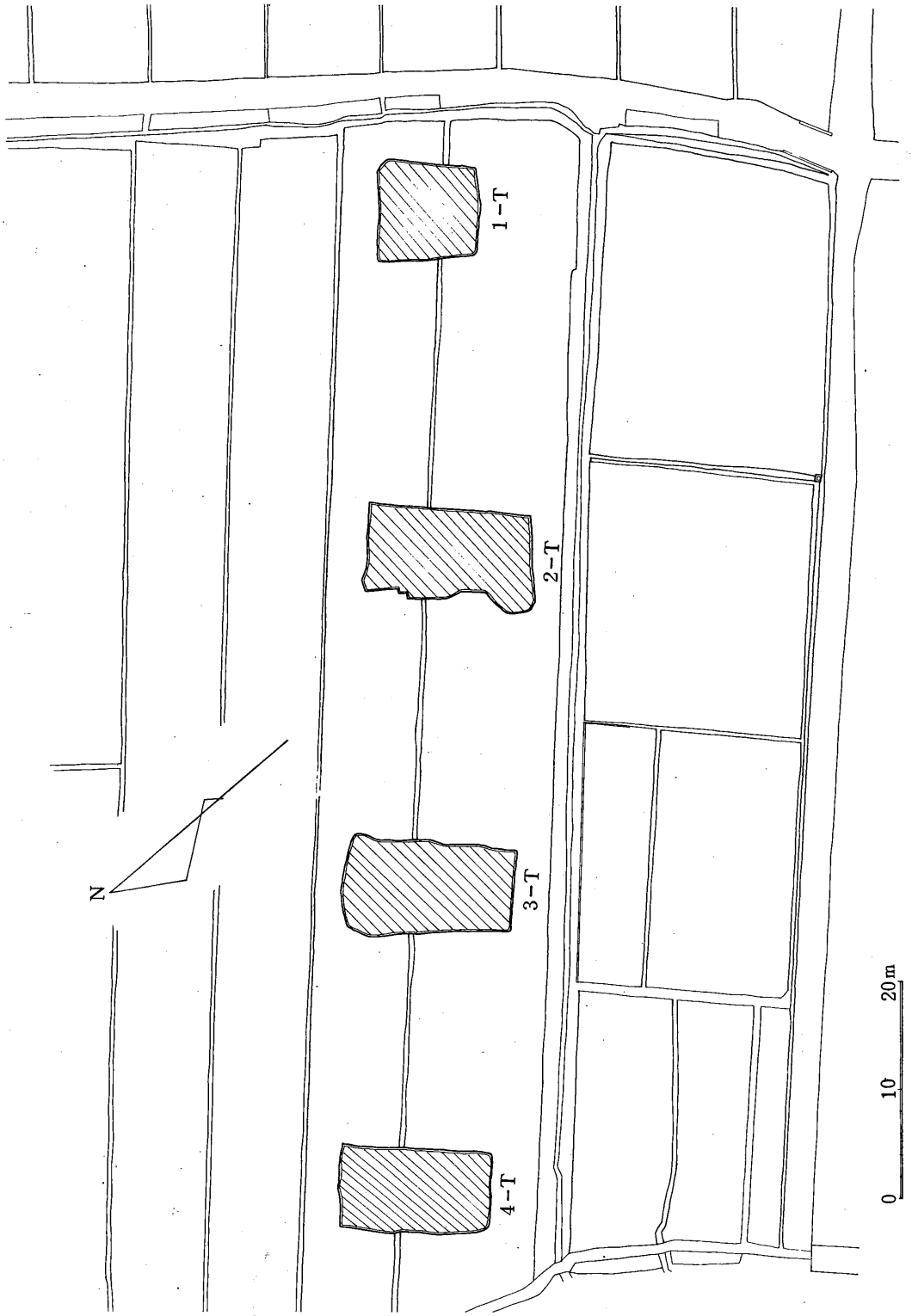
24	壺	24.4 cm (腹径)	<ul style="list-style-type: none"> 体部は球形を成し、底部は平底と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面はハケ調整 内面は底部と中位部はハケ調整で、他は指によるナデ調整 底部のハケ調整は密である 	3-T 3層 胎土：良好 色調：白灰褐色 焼成：硬
25	壺 図上 復元	10.6 cm (腹径) 21 cm (高サ)	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は内彎して開き、端部を丸くおさめる。 頸部はしまっており、体部はやや扁平な球形を成す。 底部は弱いくぼみ底を成す。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は内外面ともヘラ磨き調整 体部外面はヘラ磨き調整であるが、底部付近はやや粗い。 体部内面は指によるナデ上げ調整であり、底部付近はハケ調整痕が残る。 	3-T 3層 胎土：密 色調：淡赤褐色 焼成：硬
26	壺	9.9 cm (口径)	<ul style="list-style-type: none"> 口縁はやや内彎して立上り、端部を丸くおさめる。 体部はやや扁平な球形を成す。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部内外面とも密なヘラ磨き 体部外面は密なヘラ磨き調整 体部内面は指によるナデ上げ 	3-T 3層 胎土：密 色調：赤褐色 焼成：やや硬
27	壺	17.3 cm (腹径)	<ul style="list-style-type: none"> 体部は下半が扁平な球形を成す。 底部は平底である。 	<ul style="list-style-type: none"> 外面はヘラ磨き 内面は横ナデ調整であるが、付近はハケ調整痕が部分的に残り、その上は強い指ナデ調整 底部は不調整 	4-T 3層 胎土：良好 色調：白灰色 焼成：やや軟
28	壺	10.4 cm (口径)	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は「く」の字状に開き、端部を丸くおさめる。 体部は肩が張らず、最大腹径は中位部にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は内外面ともにヘラ磨き 体部外面は密なヘラ磨きである 体部内面は横ナデ調整 	3-T 3層 胎土：良好 色調：淡赤褐色 焼成：硬
29	小型 丸底 壺	9.2 cm	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は「く」の字状に開き、端部を丸くおさめる。 体部は扁平な球形を成す。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は内外面とも横ナデ調整 体部外面はハケ調整 体部内面はナデ調整 内面頸部下は弱いヘラ削り 中位部下は横ナデ調整 	2-T 3層 胎土：良好 色調29：灰褐色 " 30：淡灰褐色 " 31：淡黄褐色 焼成：硬
30	〃	8.5 cm			
31	〃	8.9 cm (口径)			
32	甕	15.4 cm (口径)	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は「く」の字状を成し、端部を丸くおさめる。 最大腹径は上位に位置し、しまった平底の底部を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は内外面ともにハケ調整 体部外面は粗いタタキ板による。二段タタキで、下位から底部にかけてナデ調整 体部内面は上半部が横方向のヘラ削り、下半部はハケ調整の後、ナデで仕上げる。 	3-T 3層 胎土：良好 色調：淡褐灰色 焼成：硬
33	甕	16 cm (口径)	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は受口状を成し、屈曲部に列点文を施す。 頸部下にハケ状工具による擬凹線を入れ、その下に列点文を施す。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は内外面ともに横ナデ調整 体部外面はハケ調整 体部内面はハケ調整の後、ナデ調整 	4-T 3層 胎土：良好 色調：淡灰褐色 焼成：硬

34	壺	14.8 cm (口径)	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は受口状を成し、屈曲部に列点文を施す。 頸部下に列点文を施す。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は内外面ともに横ナデ調整 頸部内面はハケ調整のち横ナデ調整 体部は内外面ともハケ調整 	4-T 3層 胎土：良好 色調：明赤褐色 焼成：硬
35	壺	17.4 cm (口径)	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は受口状を成し、屈曲部に列点文を施す。 体部は頸部下に密な列点文を施し、その下にハケによる弱い擬凹線を施す。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は内外面とも横ナデ調整 体部外面はハケ調整、内面はハケ調整の後にナデ調整 	4-T 3層 胎土：良好 色調：白灰褐色 焼成：硬
36	壺	14.6 cm (口径)	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は受口状を成し、端部下にへらによる沈線を施す。 体部は最大腹径が中位に位置する。 底部はしまっており、くぼみ底を成す。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は内外面とも横ナデ調整 体部外面はへら状工具によるカキ目調整 体部内面はへら削りの後、ナデ調整 底部内面に炭化物付着 	3-T 3層 胎土：密 色調：淡褐黄色 焼成：硬
37	壺	21 cm (腹径)	<ul style="list-style-type: none"> 最大腹径は中位に位置すると思われる、平底の底部に続く。 	<ul style="list-style-type: none"> 内外面ともハケ調整 	4-T 3層 胎土：密 色調：淡褐灰色 焼成：硬
38	壺	14.6 cm (口径)	<ul style="list-style-type: none"> 口縁はやや内彎して開き、端部内面を肥厚させる。 体部は最大腹径が中位に位置しやや長い球形を成す。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は内外面とも横ナデ調整 体部外面は上半部横ナデ、下半部ハケ調整の後弱いナデ調整 内面は中位まで横方向のへら削り、下位は左上方のへら削りで底部付近に指頭圧痕を残す。 	2-T 3層 胎土：粗雑 色調：淡赤褐色 焼成：やや硬
39	浅鉢	17.6 cm (口径)	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は受口状を成し、屈曲部に列点文を施す。 中位部が強く張った扁平な形の体部を持つ。 頸部下に弱い擬凹線を入れ、その下に列点文を施す。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は内外面ともに横ナデ調整 頸部内面から肩部にかけてはハケ調整の後、横ナデ調整 体部外面はハケ調整、内面下半部は粗いハケ調整 	4-T 3層 胎土：良好 色調：明灰褐色 焼成：硬
40	浅鉢	14.8 cm (口径)	<ul style="list-style-type: none"> 口縁は受口状を成し、屈曲部に列点文を施す。 中位部が強く張った扁平な形の体部を持つ。 頸部下に弱い擬凹線を施し、その下に列点文を入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 口縁部は内外面ともに横ナデ調整 体部は内外面ともハケ調整 	4-T 3層 胎土：良好 色調：明褐色 焼成：やや軟
41	高坏	25.9 cm (口径)	<ul style="list-style-type: none"> 弱く内彎気味に開く坏底部より口縁部は外彎して立上る。 	<ul style="list-style-type: none"> 坏部は内外面ともにハケ調整の後、密なへら磨き 	4-T 3層 胎土：良好 色調：明褐色 焼成：硬
42	"	24.9 cm (口径)	<ul style="list-style-type: none"> 屈曲部は垂下し、端部は丸く仕上る。 		

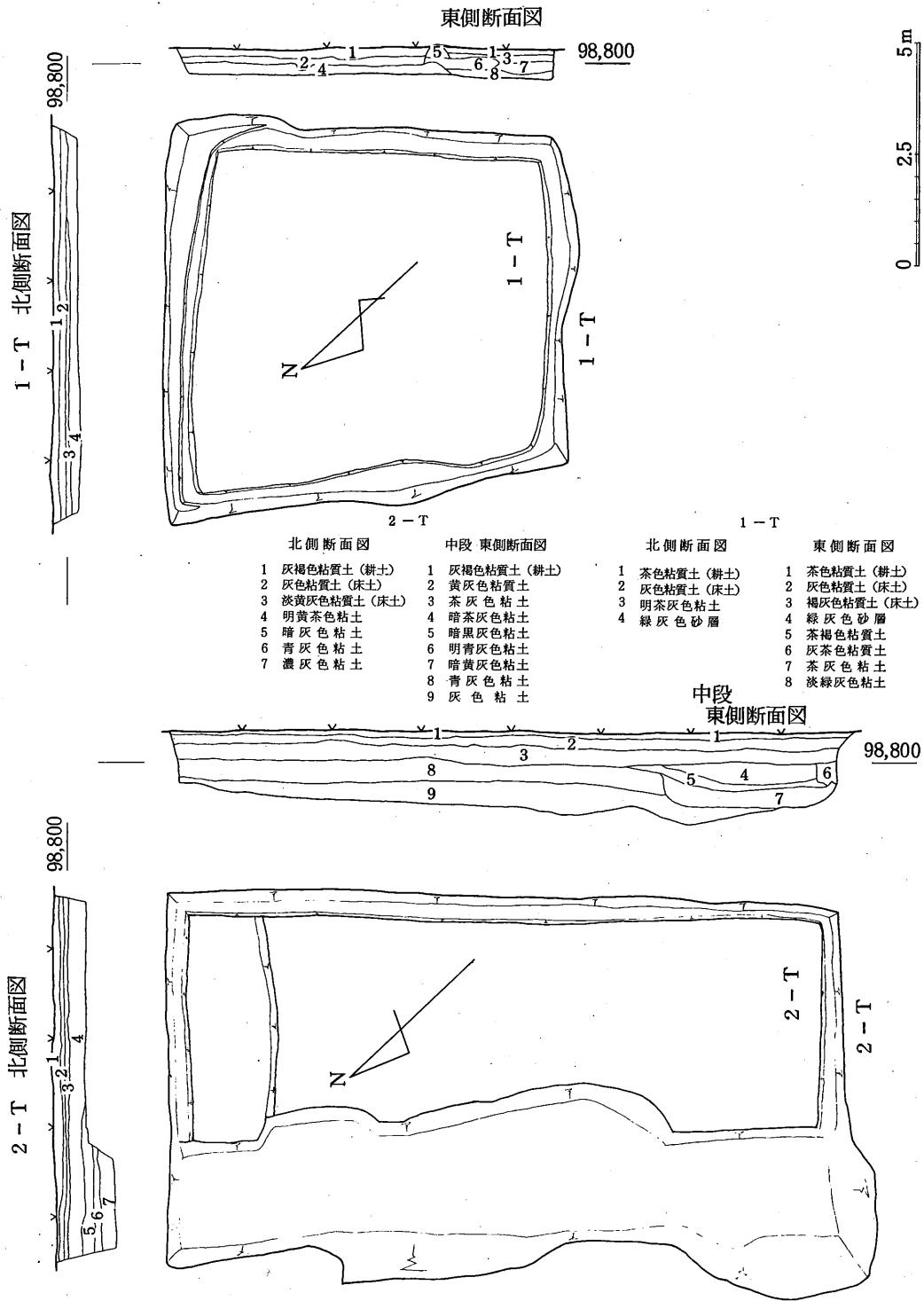
43	高坏		<ul style="list-style-type: none"> ○ 坏底部は平らに作られ、弱い稜を持ち、やや内彎して開く。 ○ 脚部は三孔を有し、ラッパ状に開く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 坏部内面は放射上の密なヘラ磨き、外面は縦方向の密なヘラ磨きである。 ○ 坏底部外面は横方向の密なヘラ磨き ○ 脚部外面は縦方向の密なヘラ磨き、内面はナデ調整 	3-T 3層 胎土：良好 色調：明褐色 焼成：硬
44	高坏		<ul style="list-style-type: none"> ○ 脚部はラッパ状に開き、端部を丸くおさめる。 ○ 三孔を穿たれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 坏底部内面は横方向のヘラ磨き、外面は縦方向の密なヘラ磨き ○ 脚部外面は縦方向の密なヘラ磨き、内面は柱上部がヘラ削りで、下半部はナデ調整 	3-T 3層 胎土：良好 色調：淡白褐色 焼成：硬
45	高坏	12.5 cm (口径)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 坏底部は直線的に開き、口縁部は屈曲して内傾しながら立上り、端部を丸くおさめる。 ○ 脚部は三孔を有し、ラッパ状に開き、端部を面取りする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 坏部内面と外面下半部は横方向の密なヘラ磨きで、外面上半部は縦方向のヘラ磨き ○ 脚部外面は縦方向のヘラ磨きで、端部付近は横方向のヘラ磨き、内面は横ナデ調整 	4-T 3層 胎土：密 色調：明赤褐色 焼成：硬
46	器台	18.9 cm (口径)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 器台受部は直線的に開き、端部を面取りし、垂下させる。 ○ 脚部は三孔を有し、やや器肉の厚い柱上部である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 受部は内外面ともに縦方向の密なヘラ磨きであるが、外面口縁部付近は横方向のヘラ磨きで端部はナデ調整 ○ 脚部は外面、密なヘラ磨きで内面は横ナデ調整 	4-T 3層 胎土：密 色調：淡褐灰色 焼成：硬
47	器台		<ul style="list-style-type: none"> ○ 柱状部は直線的に作られ、ロート状に開がる脚部に至り、端部を丸くおさめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 柱状部外面は縦方向のヘラ磨き、内面はハケ調整の後にナデ調整 	3-T 3層 胎土：密 色調：淡赤褐色 焼成：硬



第2図 稲部遺跡調査位置図



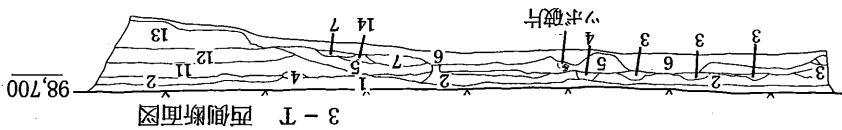
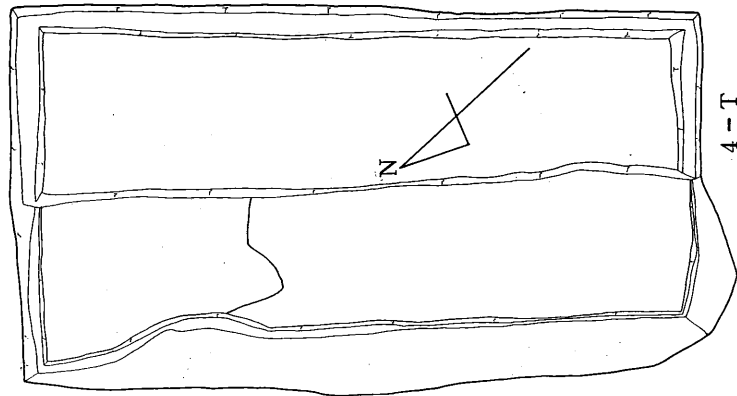
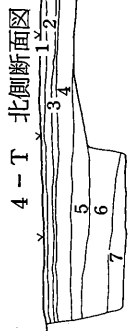
第3図 稲部遺跡トレンチ配置図



第4図 1・2-T 平面図および断面図

- | | | | |
|---|---|--|--|
| <p>北側断面図</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 灰褐色粘質土 (耕土) 2 灰色粘質土 (床土) 3 淡黄灰色粘質土 (床土) 4 明黄茶色粘土 5 暗灰色粘土 6 青灰色粘土 7 濃灰色粘土 | <p>中段 東側断面図</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 灰褐色粘質土 (耕土) 2 黄灰色粘質土 3 茶灰色粘土 4 暗茶灰色粘土 5 暗黑灰色粘土 6 明青灰色粘土 7 暗黄灰色粘土 8 青灰色粘土 9 灰色粘土 | <p>北側断面図</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 茶色粘質土 (耕土) 2 灰色粘質土 (床土) 3 明茶灰色粘土 4 緑灰色砂層 | <p>東側断面図</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 茶色粘質土 (耕土) 2 灰色粘質土 (床土) 3 褐灰色粘質土 (床土) 4 緑灰色砂層 5 茶褐色粘質土 6 灰茶色粘質土 7 茶灰色粘土 8 淡緑灰色粘土 |
|---|---|--|--|

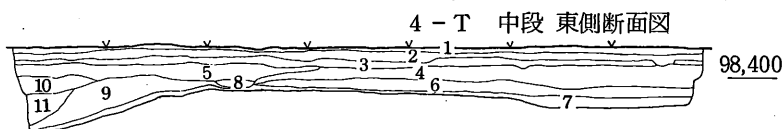
中段
東側断面図



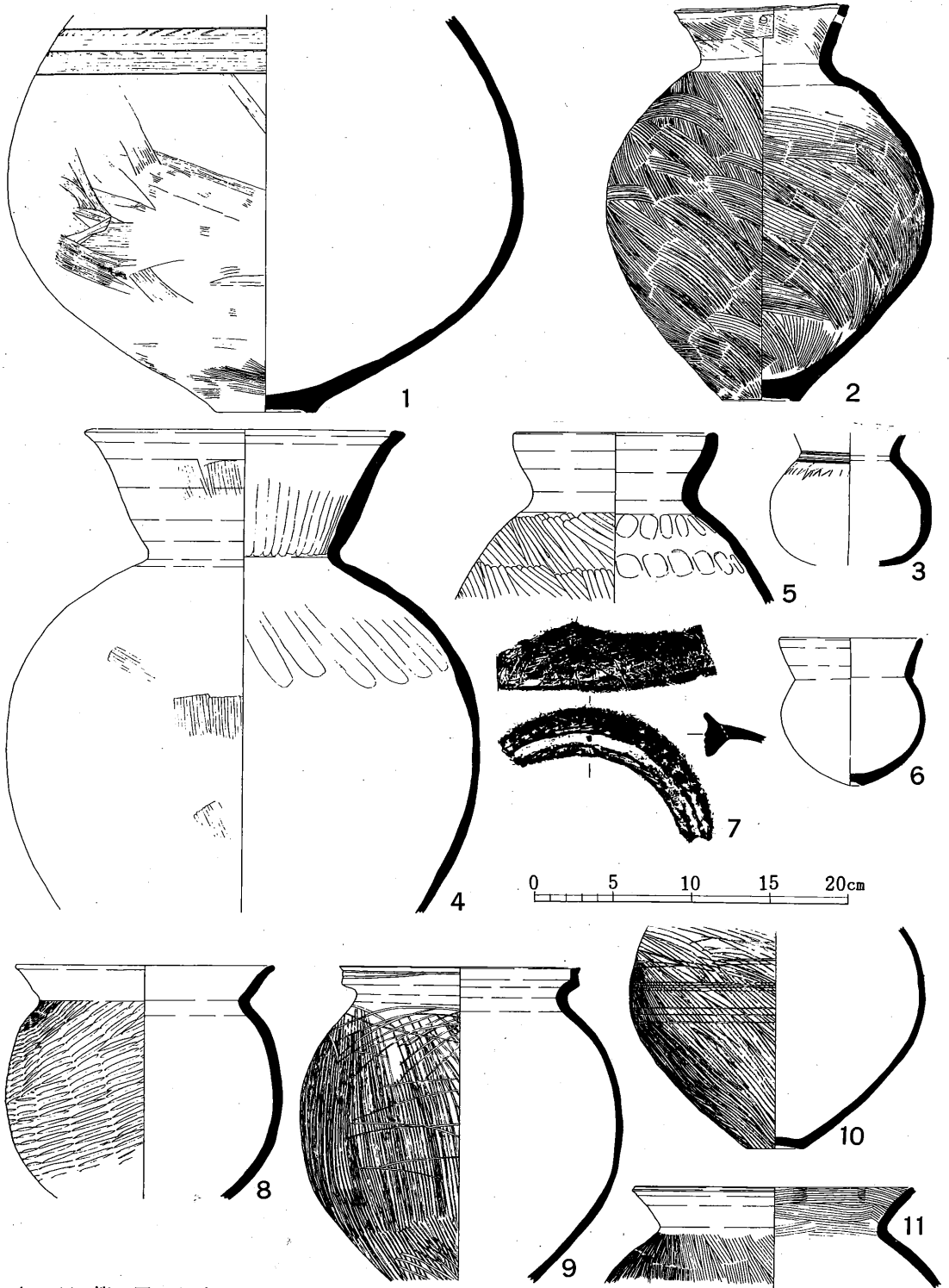
- 3-T 西側断面図
- 1 灰褐色粘質土 (耕土)
 - 2 茶灰色粘質土 (床土)
 - 3 淡黄灰色粘質土
 - 4 黄灰色粘質土
 - 5 砂质褐色粘質土
 - 6 青灰色砂層 (下部-中心部)
 - 7 砂质淡褐色粘土
 - 8 砂质灰色粘質土
 - 9 灰色粘質土
 - 10 砂质褐色粘質土層
 - 11 砂质褐色粘質土
 - 12 茶褐色粘質土
 - 13 黄灰色粘質土
 - 14 茶灰色砂質土層

- 4-T 北側断面図
- 1 灰褐色粘質土 (耕土)
 - 2 淡灰色粘質土 (耕土)
 - 3 淡黄灰色粘質土 (床土)
 - 4 明黄灰色粘土
 - 5 暗黄灰色粘土
 - 6 濃茶灰色粘土層
 - 7 濃灰色粘土層

- 中段 東側断面図
- 1 灰褐色粘質土 (耕土)
 - 2 淡灰色粘質土 (耕土)
 - 3 淡黄灰色粘質土 (床土)
 - 4 砂质褐色粘質土
 - 5 明黄灰色粘土
 - 6 砂质淡茶灰色粘質土
 - 7 青灰色砂層
 - 8 黑灰色粘質土
 - 9 灰色粘土層 (下部-やや砂層)
 - 10 暗灰色粘土
 - 11 濃茶灰色粘土層

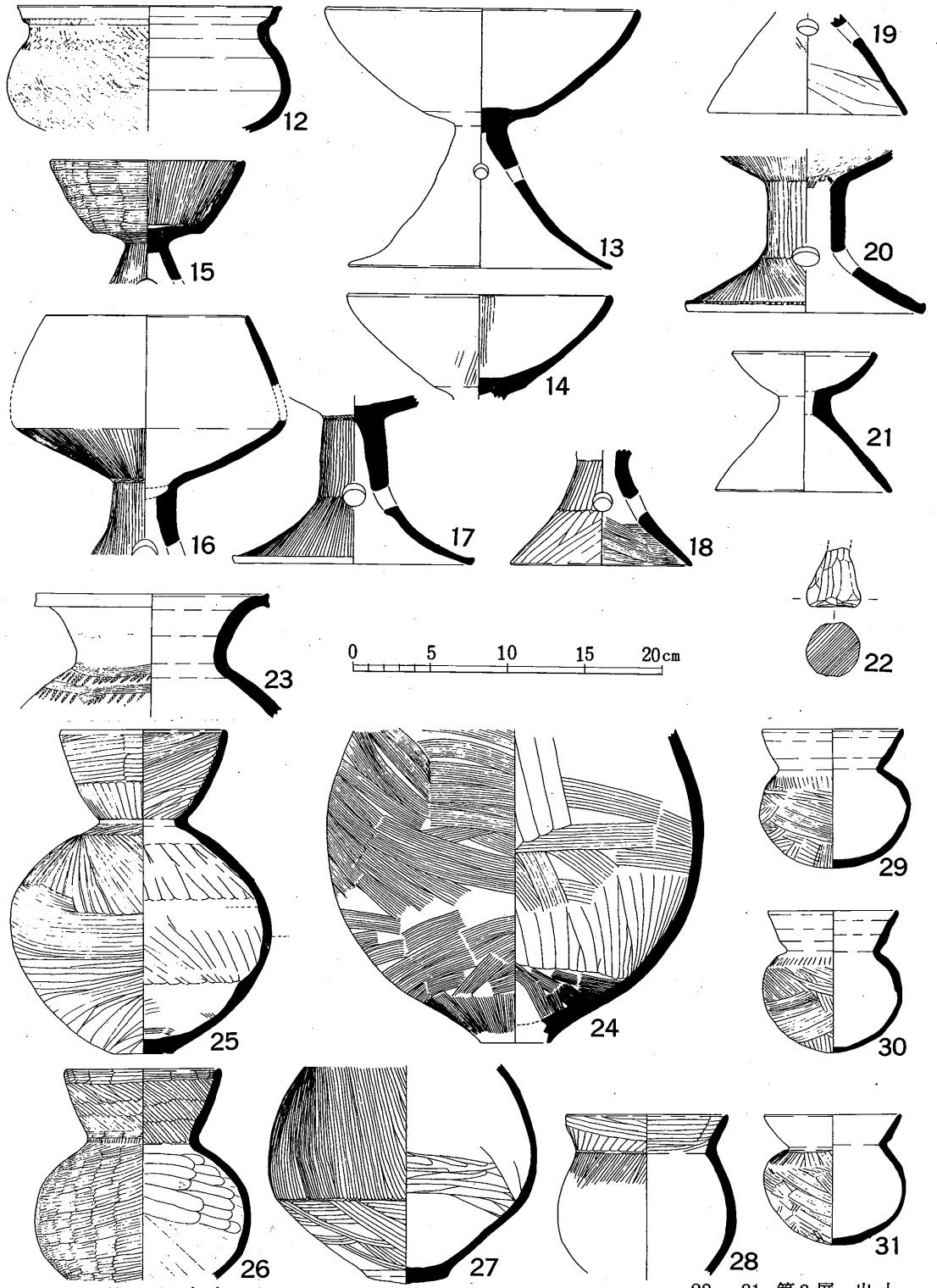


第5図 3・4-T 平面図および断面図



1~11 第2層 出土

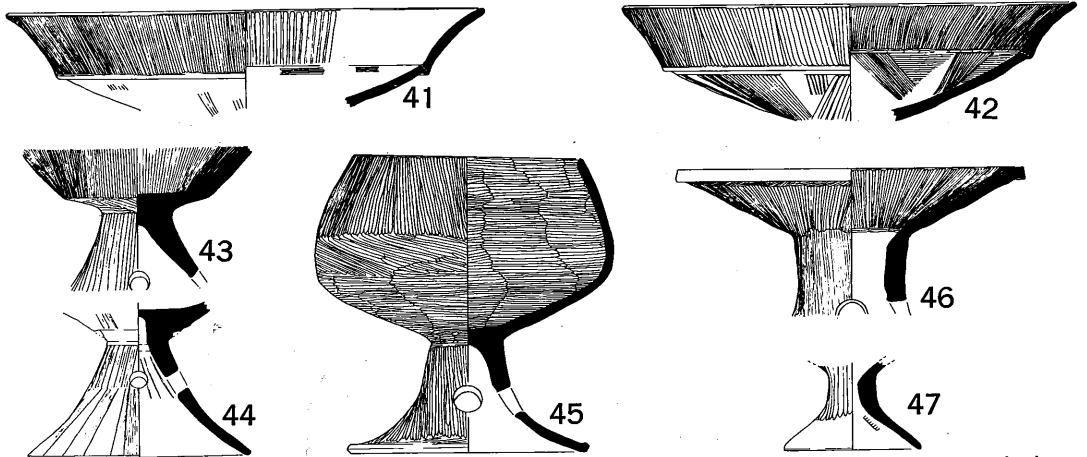
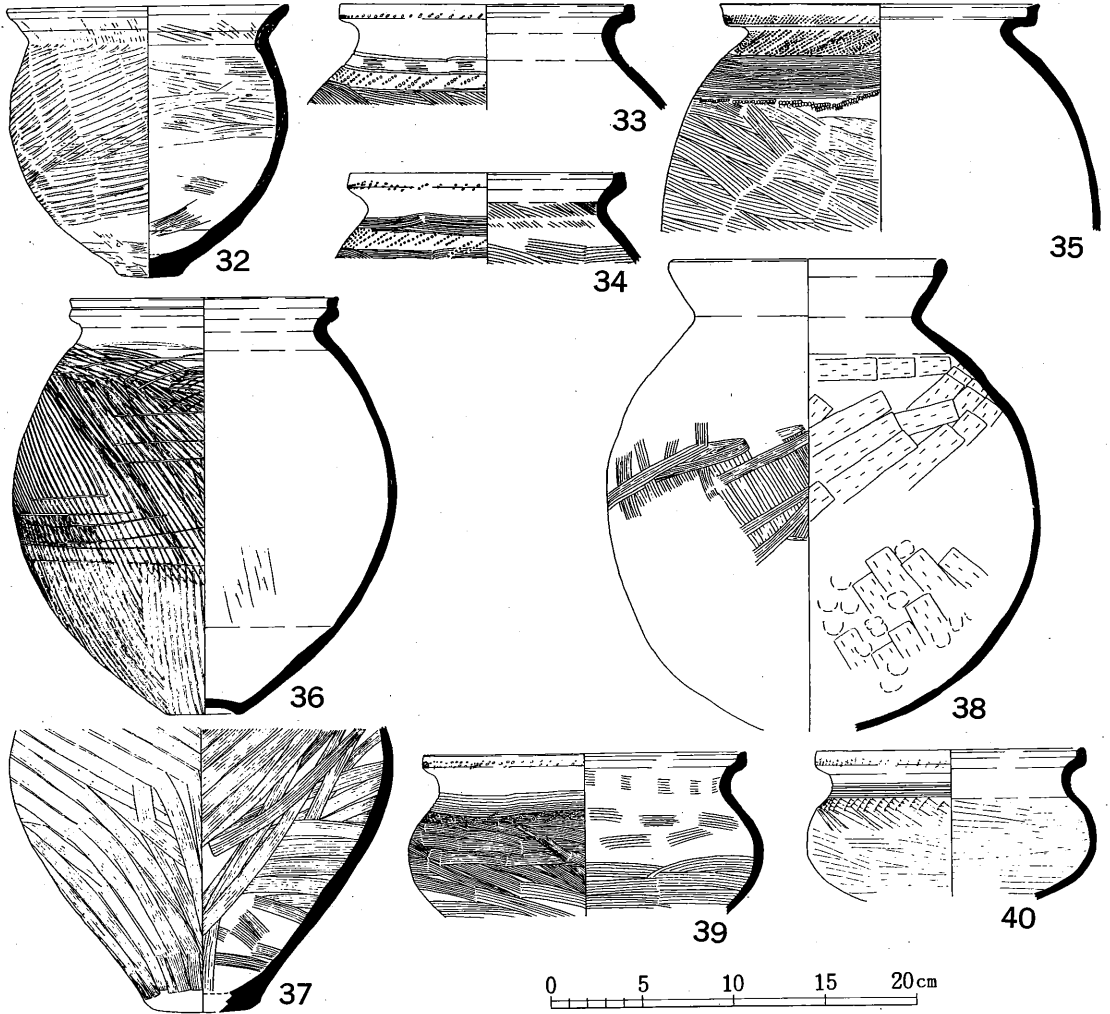
第6圖 出土遺物實測圖



12~22 第2層 出土

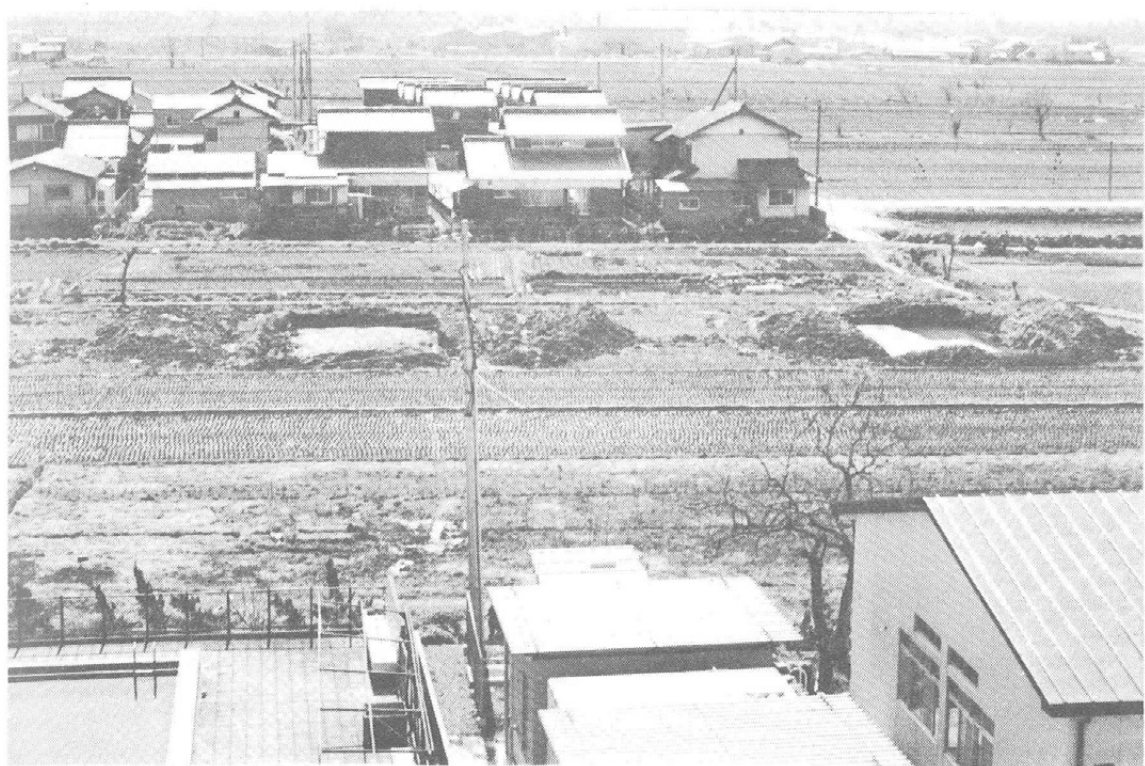
第7圖 出土遺物實測圖

23~31 第3層 出土



第8圖 出土遺物實測圖

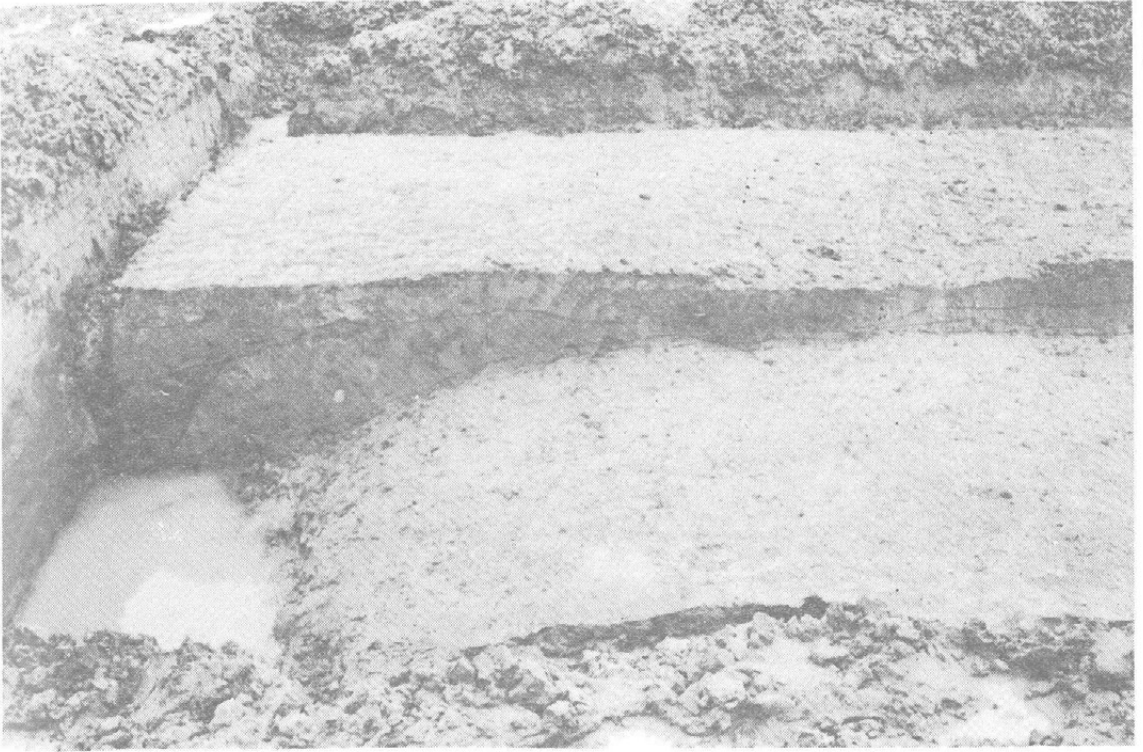
32~47 第3層 出土



調査地近影（北から）



調査地近影（西から）



3 - T 調査状況



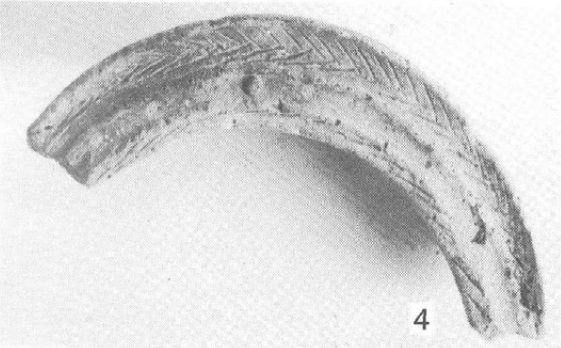
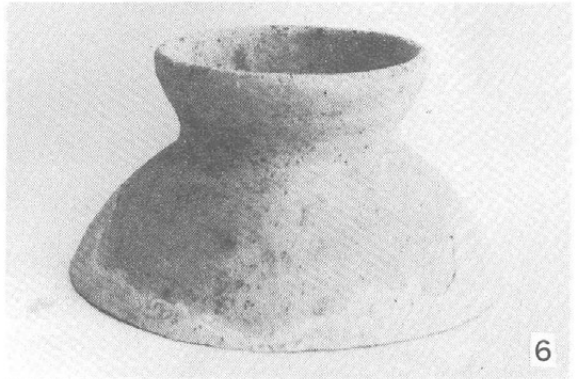
2 - T 調査状況



遺物出土状況



遺物出土状況





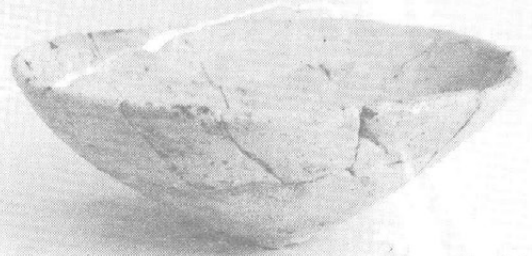
9



13



10



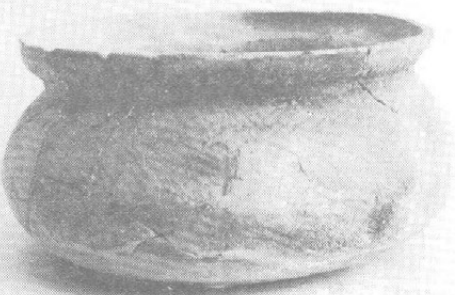
14



11



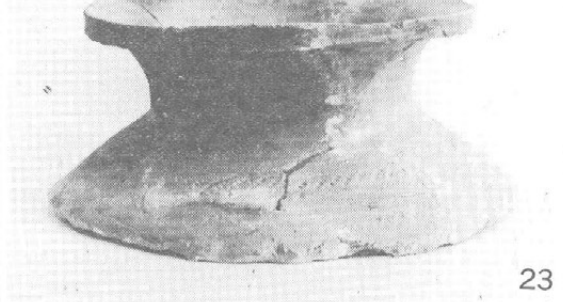
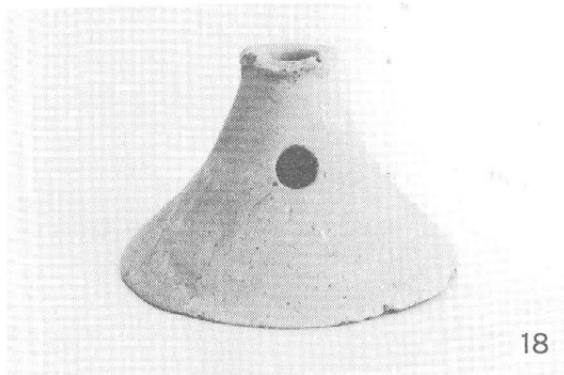
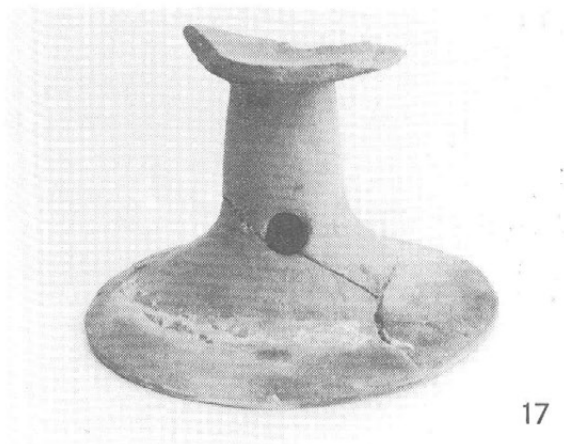
15



12



16

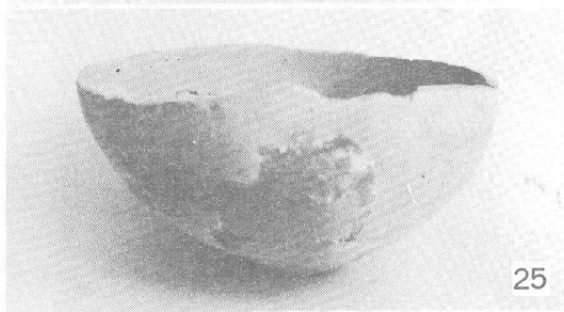




25



28



25



29



26



30



27



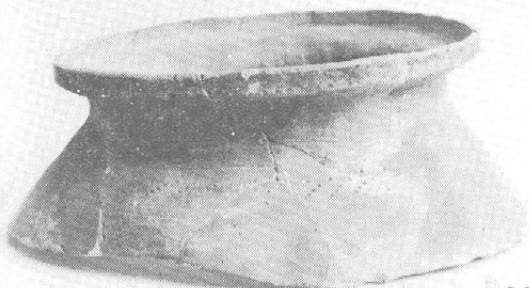
31



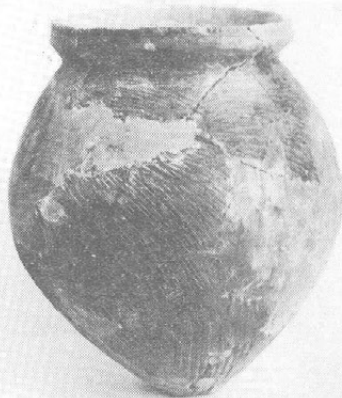
32



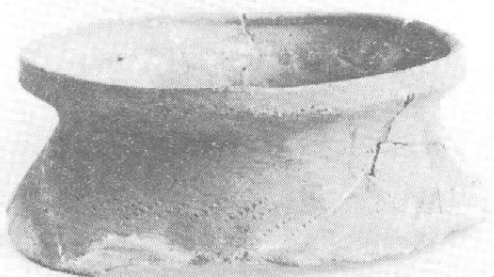
35



33



36



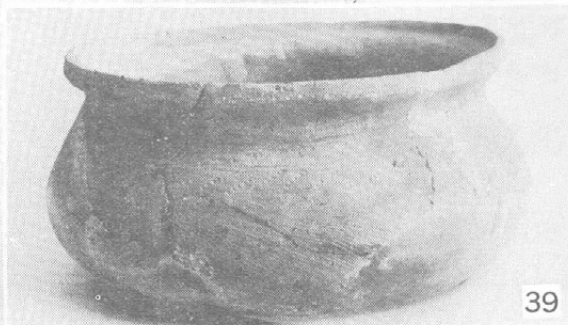
34



37



38



39

